

I 調査結果の概要

1 水田作経営

(1) 全国の水田作経営（農家1戸当たり）の動向（表1参照）

ア 農業粗収益は、177万円で前年に比べ15.7%減少した。これは、

① 稲作収入が収量は増加したものの、平成15年産米価格の高騰による反落を受けて11.1%減少

② 共済・補助金等受取金が56.4%減と大幅に減少したこと等による。

また、農業経営費は138万円で、前年に比べて2.3%減少した。これは、農業用機械の効率的利用等により農用自動車及び農機具を中心に減価償却費が減少したこと等による。

この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は39万円で前年に比べて43.3%減少した。

イ 農外所得は277万円で、給料・俸給等の収入が増加したことにより、前年に比べて2.6%増加した。また、年金等の収入は、年金収入が増加したこと等により177万円で4.3%増加した。

ウ この結果、これら農業所得、農外所得、年金等の収入に農業生産関連事業所得を加えた総所得は、農業所得が減少したことから493万円で、前年に比べて3.1%減少した。

表1 水田作経営農家の経営概要（全国・1戸当たり）

区 分		平成16年	15	対前年 増減率
		千円	千円	%
農 業 粗 収 益		1 771	2 102	△ 15.7
うち、作物収入		1 512	1 682	△ 10.1
うち、稲作収入		1 176	1 323	△ 11.1
麦類		58	53	9.4
豆類		31	32	△ 3.1
共済・補助金等受取金		137	314	△ 56.4
うち、水田作物収入		1 309	...	...
農業経営費		1 379	1 411	△ 2.3
農業所得		392	691	△ 43.3
（参考）共済・補助金等を除いた農業所得		312	451	△ 30.8
農業生産関連事業所得		2	5	△ 60.0
農 外 所 得		2 770	2 700	2.6
年金等の収入		1 765	1 693	4.3
総 所 得		4 929	5 089	△ 3.1
経営概況	月平均農業経営関与者（人）	2.01	2.00	0.5
	経営耕地面積（a）	164	160	2.5
	水田作付延べ面積（〃）	121	121	0.0
	自営農業労働時間（時間）	816	...	...

(2) 水田作付延べ面積規模別の動向（図1、表2参照）

ア 水田作経営は、全国販売農家数の約6割を占めるが、副業的農家（65歳未満の農業就業者がいない農家）が多く含まれていることから総所得に占める農業所得の割合は8.0%と低くなっている。

このため、農業経営関与者一人当たり農業所得は、20万円であるが、農外所得や年金等の収入等を加えた総所得でみると245万円となっている。

図1 農業経営関与者1人当たり所得等の階層別比較（全国）

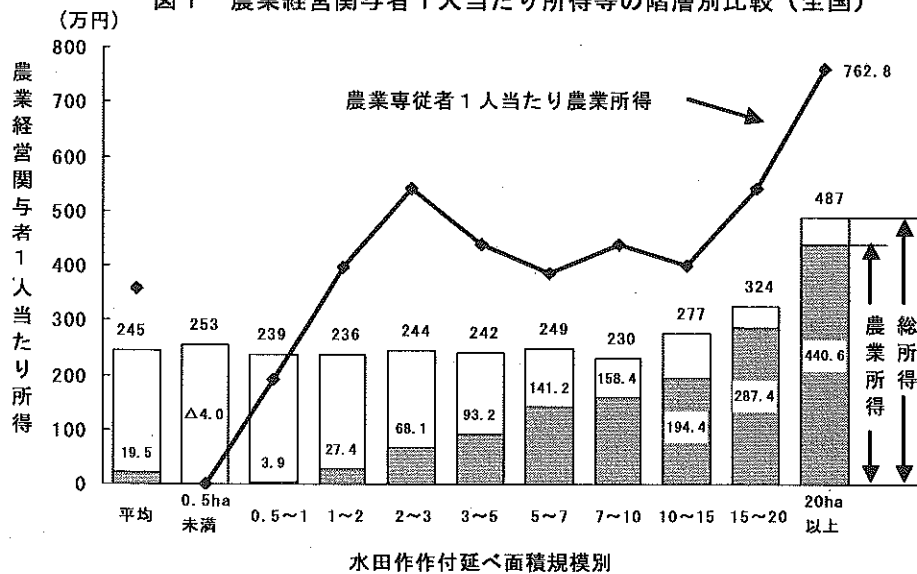


表2 水田作付延べ面積規模別にみた水田作経営の結果（全国・1戸当たり）

区 分	単位	平均	水 田 作 付 延 べ 面 積 規 模 別									
			0.5ha 未満	0.5~ 1.0	1.0~ 2.0	2.0~ 3.0	3.0~ 5.0	5.0~ 7.0	7.0~ 10.0	10.0~ 15.0	15.0~ 20.0	20.0ha 以上
総 所 得	千円	4 929	4 992	4 748	4 791	5 051	5 134	5 659	5 339	7 063	8 430	13 495
農 業 所 得	〃	392	△ 78	77	557	1 410	1 976	3 205	3 676	4 956	7 472	12 204
総所得に占める農業所得割合	%	8.0	...	1.6	11.6	27.9	38.5	56.6	68.9	70.2	88.6	90.4
農 業 経 営 費	千円	1 379	581	961	1 607	2 464	3 868	5 441	7 137	10 303	13 930	24 814
耕地10a当たり	〃	84	88	84	85	82	85	87	84	76	73	79
農 業 所 得 率	%	22.1	...	7.4	25.7	36.4	33.8	37.1	34.0	32.5	34.9	33.0
経営耕地面積	a	164	66	114	190	299	456	626	849	1 360	1 898	3 128
農業経営関与者数	人	2.01	1.97	1.99	2.03	2.07	2.12	2.27	2.32	2.55	2.60	2.77
農業専従者数	〃	0.11	0.01	0.04	0.14	0.26	0.45	0.83	0.84	1.24	1.38	1.60
自営農業労働時間	時間	816	515	650	949	1 409	1 850	2 540	2 728	3 361	3 633	4 699
耕地10a当たり	〃	50	78	57	50	47	41	41	32	25	19	15
関与者1人当たり	〃	406	261	327	467	681	873	1 119	1 176	1 318	1 397	1 696
農業固定資産額	千円	2 523	1 489	2 082	3 103	3 816	5 444	6 343	7 991	11 281	17 088	26 751
耕地10a当たり	〃	154	226	183	163	128	119	101	94	83	90	86

イ 農業経営関与者1人当たり総所得を水田作付延べ面積規模別にみると、経営規模が拡大するに伴って農業所得も大きくなるものの、同時に農外所得と年金等の収入が小さくなり、0.5ha未満の階層から7.0~10.0haの階層までは、230万円~250万円ではほぼ同水準となっているが、10.0ha以上の規模になると、10.0~15.0haの階層では277万円、15.0~20.0haの階層では324万円、20.0ha以上の階層では487万円と農業所得の増加により、総所得が大幅に増加している。

これは、経営規模が拡大することに伴い農業経営関与者1人当たりの農業労働時間が増加するものの、10.0ha規模付近からは農業固定資産額も増加傾向を強め、労働生産性が高まり経営規模の増加ほど農業労働時間は増加せず、比較的少ない人数でも大規模経営が行われていることによる。

また、20.0ha以上の階層は、1戸当たり農業所得では、1,220万円に達し、農業経営
関与者1人当たり農業所得でも441万円となる。また、農業専従者(年間150日以上農業
に従事した者)1人当たり農業所得では763万円となる。

ウ なお、経営規模が拡大することに伴い、スケールメリットが発揮され経営耕地10a
当たり農業労働時間は減少し、7.0ha以上の規模ではその減少率が大いだが、農用自動
車及び農機具等の農業固定資産は、5.0ha以上の規模になると経営耕地10a当たり農業
固定資産額の低減があまりみられない。

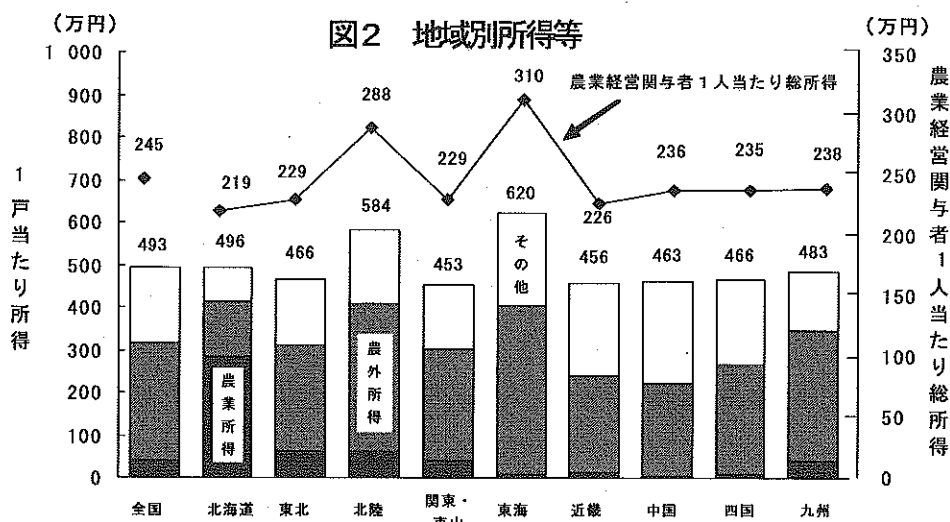
(3) 農業地域別の水田作経営の動向

ア 地域別に1戸当たり農業所得をみると、全国平均の6倍弱の経営耕地面積を持つ北
海道が286万円で最も高く、次いで経営耕地面積が2番目に大きい東北、米の価格が高
く経営耕地面積も比較的大きい北陸がそれぞれ60万円で続いている。(図2参照)

イ 地域別の総所得は、農外所得の最も大きい東海が620万円で最も高く、次いで北陸が
584万円で続いております、他の地域は、400万円の後半でほぼ並んでいる。

また、これを農業経営関与者1人当たりでみると、東海が310万円で最も高く、次い
で北陸の288万円と続き、北海道が219万円で最も低くなっている。(図2参照)

ウ 全国の水田作作物収入に占める水稻収入の割合は89.8%であるが、これを地域別に
みると、田作工芸農作物収入(21.8%、たばこ・い草)、田作麦類収入(11.9%)の割合
が高い九州が62.2%、田作麦類収入(14.1%)、田作豆類収入(9.3%)の割合の高い北海
道が73.1%、田作工芸農作物収入(11.4%、たばこ)の割合の高い四国が82.8%と全国
の水準を下回っている。これら以外の地域は、全て90%以上を水稻収入が占めており、
特に北陸、東北はそれぞれ98.7%、97.9%と水田作作物収入のほとんどが水稻収入と
なっている。(図3参照)

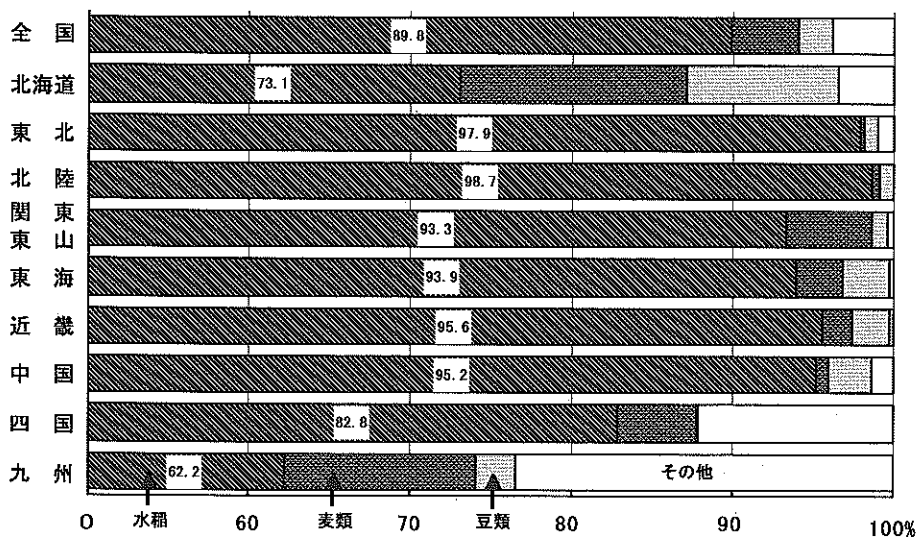


(参考) 1戸当たりの経営耕地面積

単位: a

区分	全国	北海道	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州
経営耕地	164	966	210	167	148	121	100	109	102	152

図3 水田作物収入の構成割合 (地域別)



(4) 稲作、麦類作及び豆類作の部門収支(稲作経営、麦類作経営及び豆類作経営)

ア 水田作経営の全体像

全国の水田作作付延べ面積は121aで、このうち水稻作付面積(99a)は18.1%を占めている。一方、水田作物収入は131万円で、このうち水稻収入は89.8%を占めており、麦類収入は4.2%、豆類収入は2.1%となっている。(図4参照)

イ 水田作経営における部門別収支の状況

水田作経営における水稻と転作又は裏作の代表的作物である麦類・豆類について、部門ごとの作物収入に該当部門経営に起因する共済・補助金等の受取金を加えた部門収支を比較すると次のとおりである。

(ア) 部門別にみた作物面積10a 当たり収入

稲作部門、麦類作部門及び豆類作部門を該当部門作付面積10a 当たり部門収入の全国平均で比べると、稲作部門が12万円で最も高く、次いで豆類作部門が9万円、麦類作部門が7万円となっている。

稲作部門が最も高いのは、栽培技術が高位平準化しており収量が他の作物に比べて高く、また、価格も豆類(多くが大豆)に次いで高いことによる。

豆類作部門は、国産大豆が実需者から味の良さ、安心感等を評価され、需要の裾野が広がっていたところであるが、ここ2年は日照不足や長雨等から大豆の収量が低下し、供給量が減少したため価格が高騰していること等から、麦類作部門より高くなっている。

なお、麦類も近年は収量が増加しており、高い水準で安定してきている。

これを各部門の作付面積規模別にみると、稲作部門は、栽培技術が平準化しているため、各階層ともに12万円前後の水準となっており、全ての階層で麦類作、豆類作を上回っている。豆類作部門は、階層によって多少の増減はあるものの、ほとんどの階層で稲作部門に次いで高くなっている。

また、麦類作部門は、ほとんどの階層で最も水準が低くなっているが、規模が拡大することに伴い収量が安定して水準が高くなる傾向がある。(図5、図6参照)

(イ) 部門別にみた該当部門労働1時間当たり収入

部門収入を該当部門労働1時間当たりでみると、省力化が進んでいる麦類作部門が全国平均で7,933円と最も高く、次いで豆類作部門が4,817円、稲作部門が3,536円で野菜や果樹などと比べると労働生産性は高いものの、これら3作物の中では稲作部門が最も低くなる。

これを各部門の作付面積規模別にみると、作物間の順位はおおむね平均と同様になるが、各作物ともに規模が拡大することに伴い労働生産性が向上して収入が増加している。(図5、図7参照)

図4 水田作物の構成割合(全国)

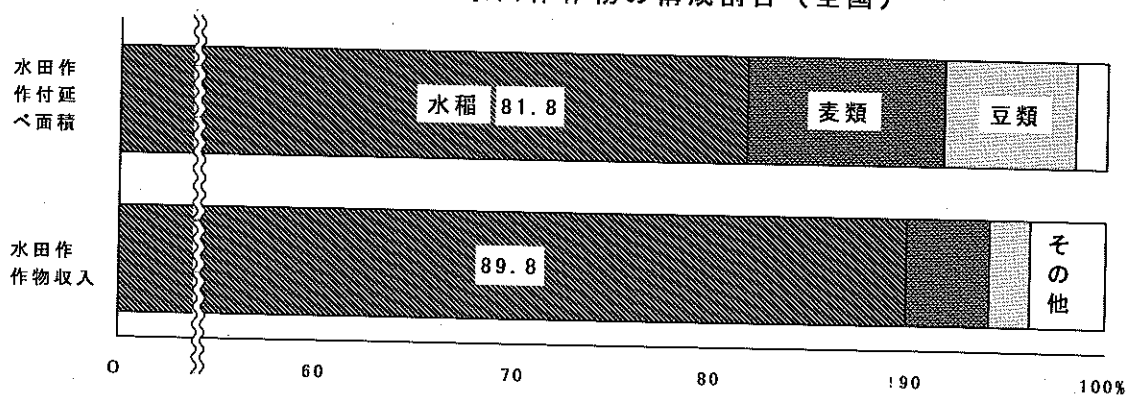


図5 稲作、麦類作、豆類作部門別経営収支
(全 国)

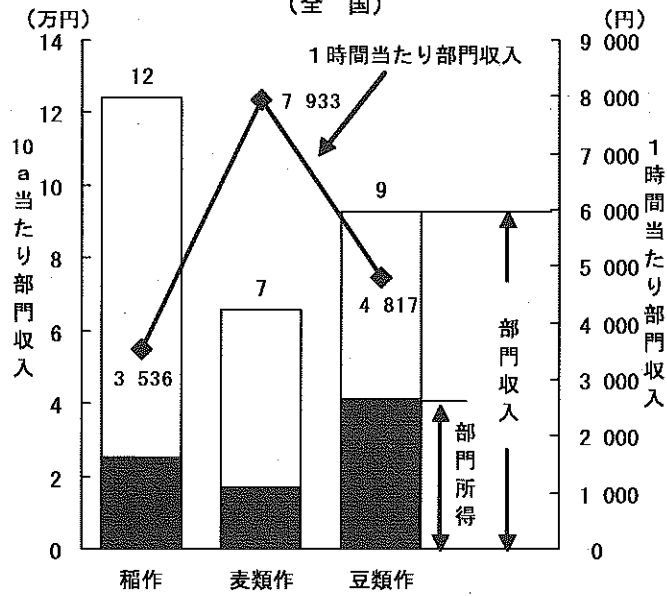


図6 部門作付面積規模別に見た10a 当たり部門収入 (全国)

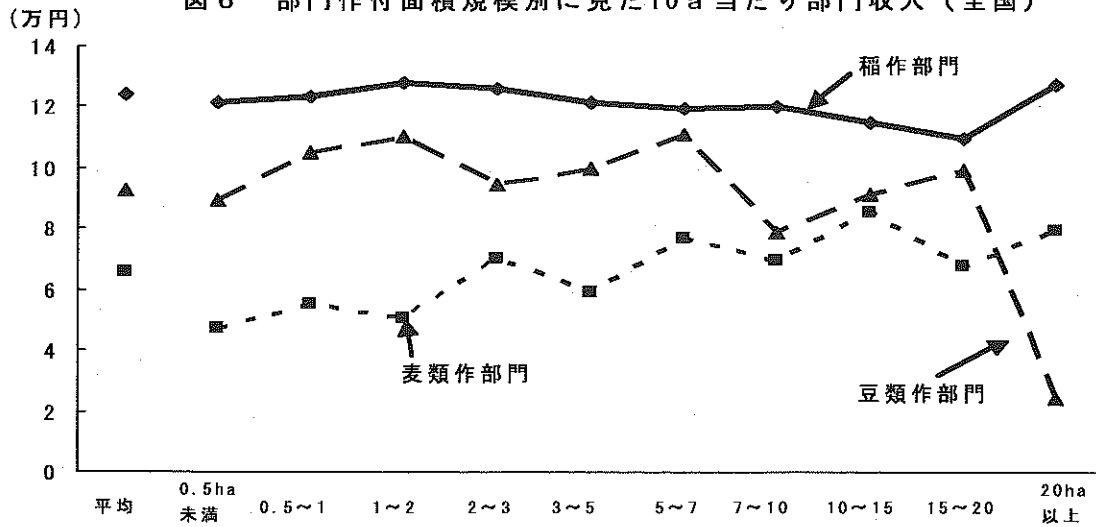
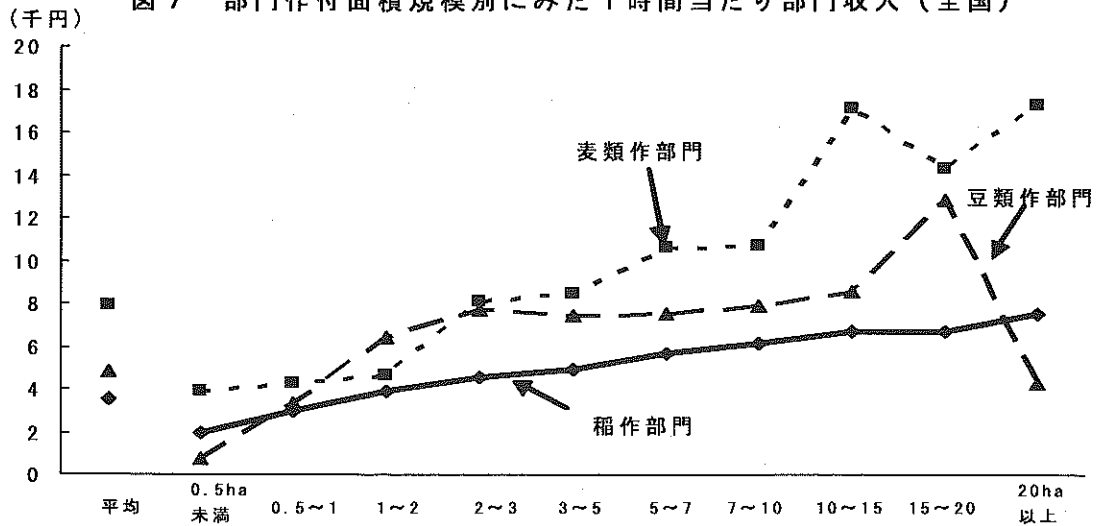


図7 部門作付面積規模別にみた1時間当たり部門収入 (全国)



(ウ) 部門別にみた所得

作物別の部門所得を該当部門作付面積10a当たりの全国平均で比較すると、豆類作部門が最も高く、次いで稲作部門、麦類作部門となっている。これを部門作付面積規模階層ごとに比較してもばらつきはあるものの、豆類作部門が最も高い階層が多く、次いで稲作部門、麦類作部門となった。(図8参照)

このように豆類作部門が最も高くなっているのは、豆類作部門は近年の豆類価格(大豆)の高騰等により収入が増加していることによる。(表3参照)

部門所得を該当部門労働1時間当たりの全国平均でみると、10a当たり該当部門労働時間が最も少ない麦類作部門が豆類作部門とほぼ同水準となる。(各階層別にみてもばらつきはあるものの多くの階層で同水準。)また、稲作部門はこの3作物では最も作業労力を必要としていることから最も水準が低い結果となっている。(図9参照)

表3 該当部門作付面積規模別の結果(全国・1戸当たり)

区 分		単位	平均	0.5ha 未満	0.5~ 1.0	1.0~ 2.0	2.0~ 3.0	3.0~ 5.0	5.0~ 7.0	7.0~ 10.0	10.0~ 15.0	15.0~ 20.0	20.0ha 以上
稲 作 部 門	部 門 所 得	千円	250	△ 51	90	453	1 020	1 500	2 297	3 474	4 383	4 956	10 723
	部 門 収 入	"	1 241	402	877	1 741	2 995	4 570	7 025	10 178	14 008	18 609	33 913
	部 門 所 得 率	%	20.1	...	10.3	26.0	34.1	32.8	32.7	34.1	31.3	26.6	31.6
	部 門 作 付 面 積	a	100	33	71	136	237	375	587	844	1 219	1 693	2 656
	部 門 労 働 時 間	時間	351	206	296	444	660	924	1 242	1 657	2 105	2 783	4 490
	うち、家 族	"	333	193	284	423	635	881	1 170	1 550	1 928	2 421	3 502
麦 類 作 部 門	部 門 所 得	千円	331	△ 40	21	74	495	612	1 730	1 748	3 271	3 452	7 076
	部 門 収 入	"	1 293	151	407	636	1 738	2 281	4 488	5 666	10 126	11 033	22 320
	部 門 所 得 率	%	25.6	...	5.2	11.6	28.5	26.8	38.5	30.9	32.3	31.3	31.7
	部 門 作 付 面 積	a	197	32	74	126	248	384	585	815	1 186	1 637	2 800
	部 門 労 働 時 間	時間	163	39	96	138	215	270	425	529	592	768	1 293
	うち、家 族	"	159	39	96	136	212	258	412	521	574	733	1 167
豆 類 作 部 門	部 門 所 得	千円	684	99	397	774	971	1 521	2 620	1 973	4 652	10 881	△1 286
	部 門 収 入	"	1 556	215	704	1 350	2 264	3 899	6 507	6 995	10 751	16 261	6 064
	部 門 所 得 率	%	44.0	46.0	56.4	57.3	42.9	39.0	40.3	28.2	43.3	66.9	...
	部 門 作 付 面 積	a	168	24	67	122	240	390	587	889	1 173	1 639	2 480
	部 門 労 働 時 間	時間	323	276	209	211	292	524	860	885	1 261	1 264	1 426
	うち、家 族	"	303	273	201	210	254	463	849	799	1 022	936	1 342

図8 部門作付面積規模別にみた10a当たり部門所得（全国）

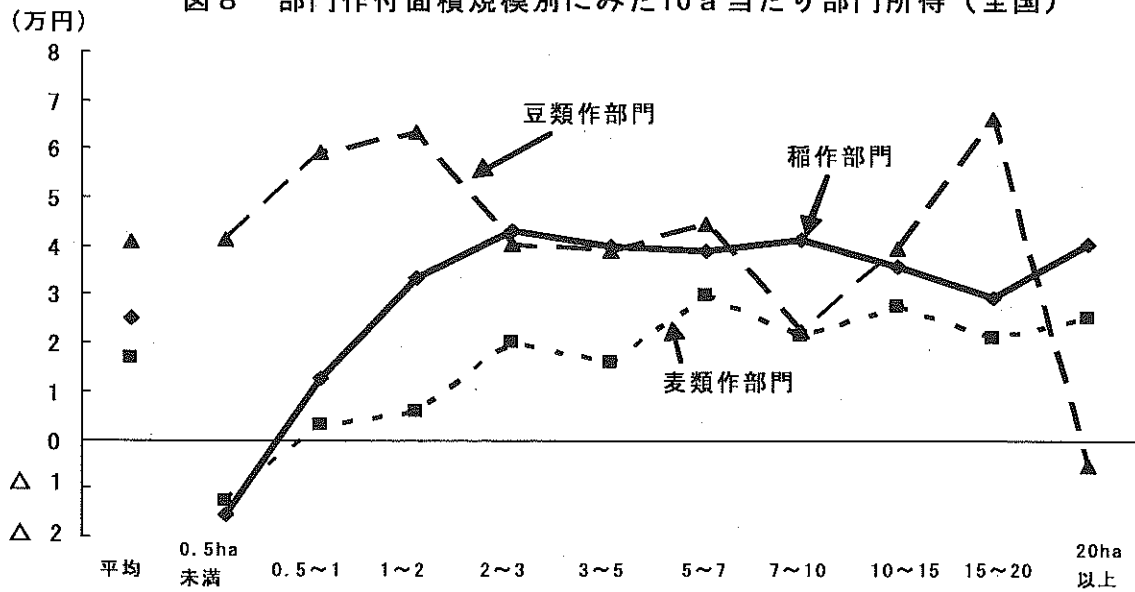
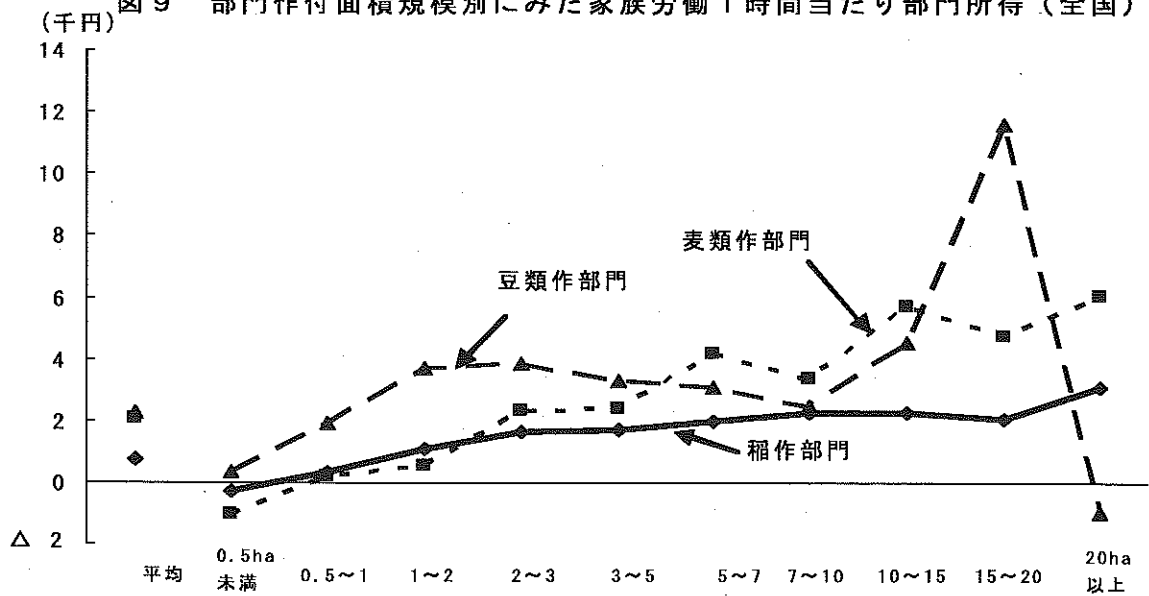


図9 部門作付面積規模別にみた家族労働1時間当たり部門所得（全国）



2 畑作経営

(1) 全国の畑作経営（農家1戸当たり）の動向（表4参照）

ア 農業粗収益は、655万円で前年に比べて10.9%増加した。これは、主要作物の作付面積が増加したことや収量が増加した作物があったこと等により、工芸農作物（茶、たばこ、てんさい等）、いも類、麦類、豆類収入等が増加したことによる。

イ 農業経営費は390万円で前年に比べて4.9%増加した。これは、経営耕地面積が8.6%増加したこと等により農業薬剤費、種苗・苗木費等が、修繕費の増加により農機具・農用自動車費、農用建物費が、価格の上昇等より光熱動力費が増加したこと等による。

ウ この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は265万円で、前年に比べて21.0%増加した。

エ 農外所得は136万円で、給料・俸給等の収入が増加したことにより、前年に比べて4.5%増加した。また、年金等の収入は、年金収入が減少したことから112万円で前年に比べて4.6%減少した。

オ この結果、これら農業所得、農外所得、年金等の収入に農業生産関連事業所得を加えた総所得は、516万円で前年に比べて10.7%増加した。

表4 畑作経営農家の経営概要（全国・1戸当たり）

区 分		平成16年	15	対前年 増減率
		千円	千円	%
農 業 粗 収 益		6 545	5 902	10.9
うち、作物収入		6 220	5 485	13.4
うち、工芸農作物		3 231	2 781	16.2
いも類		1 014	826	22.8
野菜類		648	683	△ 5.1
麦類		594	541	9.8
豆類		318	259	22.8
共済・補助金等受取金		160	291	△ 45.0
うち、畑作作物収入		5 085	...	...
農 業 経 営 費		3 898	3 715	4.9
農 業 所 得		2 647	2 187	21.0
(参考) 共済・補助金等を除いた		2 606	1 993	30.8
農 業 生 産 関 連 事 業 所 得		30	△ 2	-
農 外 所 得		1 363	1 304	4.5
年 金 等 の 収 入		1 123	1 177	△ 4.6
総 所 得		5 163	4 666	10.7
経 営 概 況	月平均農業経営関与者(人)	2.21	2.23	△ 0.9
	経営耕地面積(a)	443	408	8.6
	畑作作付延べ面積(〃)	320	294	8.8
	自営農業労働時間(時間)	2 427	...	...

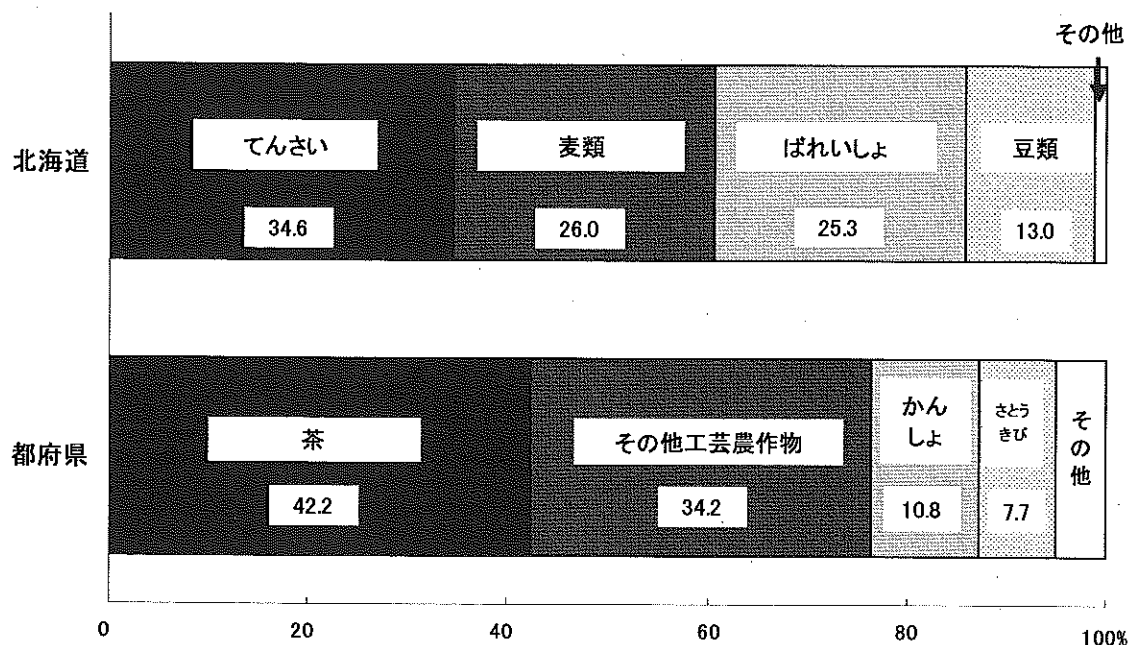
(2) 北海道と都府県の畑作経営の特徴（図10参照）

北海道と都府県の畑作経営は、経営規模及び栽培作物の種類が異なっており、更に、北海道は輪作を主にした経営である。

具体的には、平成16年の北海道の1戸当たり経営耕地面積は、23.7haであるのに対し、都府県は1.8haであり、また、北海道の主な畑作物は、てんさい、麦類、ばれいしょ、豆類であるが、都府県は、茶、その他工芸農作物（主にたばこ）、かんしょ、さとうきびである。

また、北海道ではこれらの作物（この他に野菜なども作付けている場合がある。）が輪作で栽培されているのに対し、都府県では、茶は主に東海、近畿、九州、かんしょは九州、関東・東山、さとうきびは九州（鹿児島島の島しょ）、沖縄と、地域によって特産化しているとともに、専作化している。

図10 北海道と都府県の畑作物収入の構成割合



(3) 北海道の畑作経営（表5参照）

ア 北海道平均の水準

(7) 16年の1戸当たり農業粗収益は2,381万円で、農業所得では837万円と都府県の4.5倍の水準にある。

また、1戸当たり総所得は928万円であるが、都府県は461万円で農外所得が大きいため、その水準差は2倍にまで縮小している。

(4) 北海道は、都府県に比べて経営耕地面積で13倍、農業所得で4.5倍の水準にあるが、1戸当たり自営農業労働時間は3,735時間で、都府県の2,249時間に比べて1.7倍の水準となっている。このため、自営農業労働時間を経営耕地面積10a当たりでみると、北海道が16時間で都府県は124時間を要している。

表5 北海道と都府県の比較（1戸当たり）

		単位：千円		
区 分		北海道	都府県	都府県を100とした 北海道の指数
農 業 粗 収 益		23 809	4 219	564
うち、畑作物収入		18 495	3 277	564
農 業 経 営 費		15 439	2 339	660
農 業 所 得		8 370	1 880	445
総 所 得		9 277	4 612	201
農業経営関与者1人当たり総所得		3 554	2 135	166
経 営 耕 地 面 積 (a)		2 365	182	1 299
月平均農業経営関与者(人)		2.61	2.16	121
自 営 農 業 労 働 時 間 (時間)		3 735	2 249	166
概 況	耕 地 10 a 当 たり	16	124	13

イ 畑作作付延べ面積規模別の結果

(7) 1人当たりでみた農業所得（図11、表6参照）

北海道の畑作経営を畑作作付延べ面積規模別にみると、農業経営関与者1人当たり農業所得は、10.0ha未満の階層の140万円から規模が大きくなるに伴い増加し、40.0ha以上の階層では787万円になっている。また、農業専従者（年間150日以上農業に従事した者）1人当たり農業所得でみると10.0ha未満の階層の377万円から規模が大きくなるに伴い増加し、40.0haの階層では1,140万円に達している。

これは、農業経営関与者や農業専従者数が面積規模の拡大に比べて増加しておらず、規模の拡大に伴う農業所得の増加がそのまま1人当たり農業所得の増加に反映していることによる。

このように規模が拡大しても1戸当たり自営農業労働時間があまり増加しない、つまり、経営耕地10a当たり自営農業労働時間が、経営規模の拡大に伴い減少するのは、大規模階層ほど大型・高性能な農機具を数多く所有していることがあるとみられる。

なお、このため、経営耕地10a当たり農業固定資産額は、各階層共にほぼ同水準となっている。

図11 畑作付延べ面積規模別の農業経営関与者・専従者1人当たり所得等

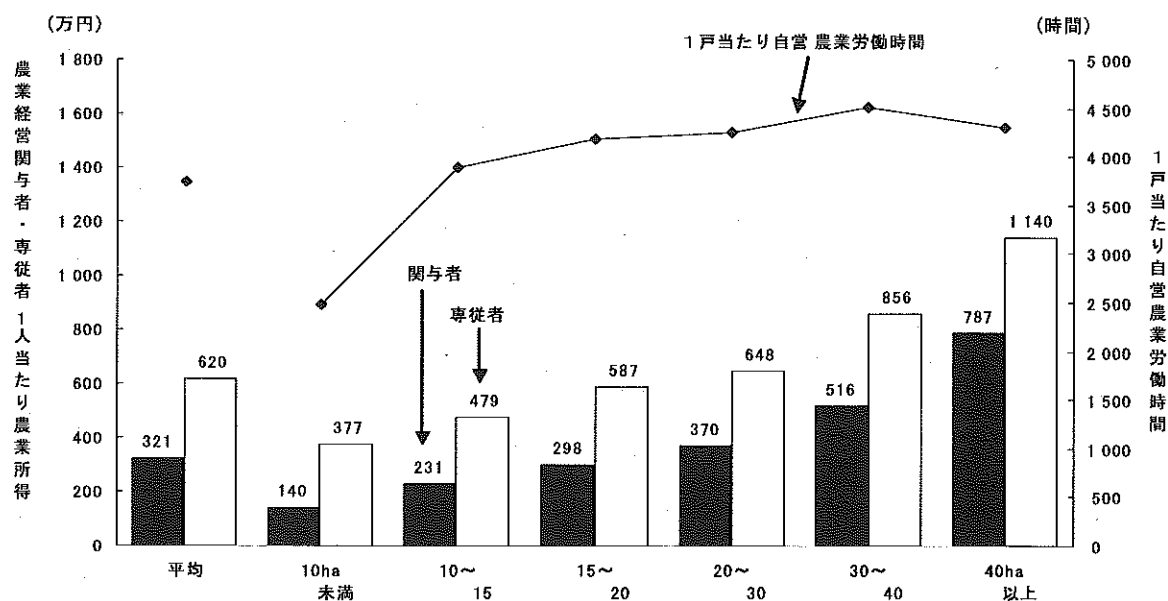


表6 北海道の畑作付延べ面積規模別の結果（1戸当たり）

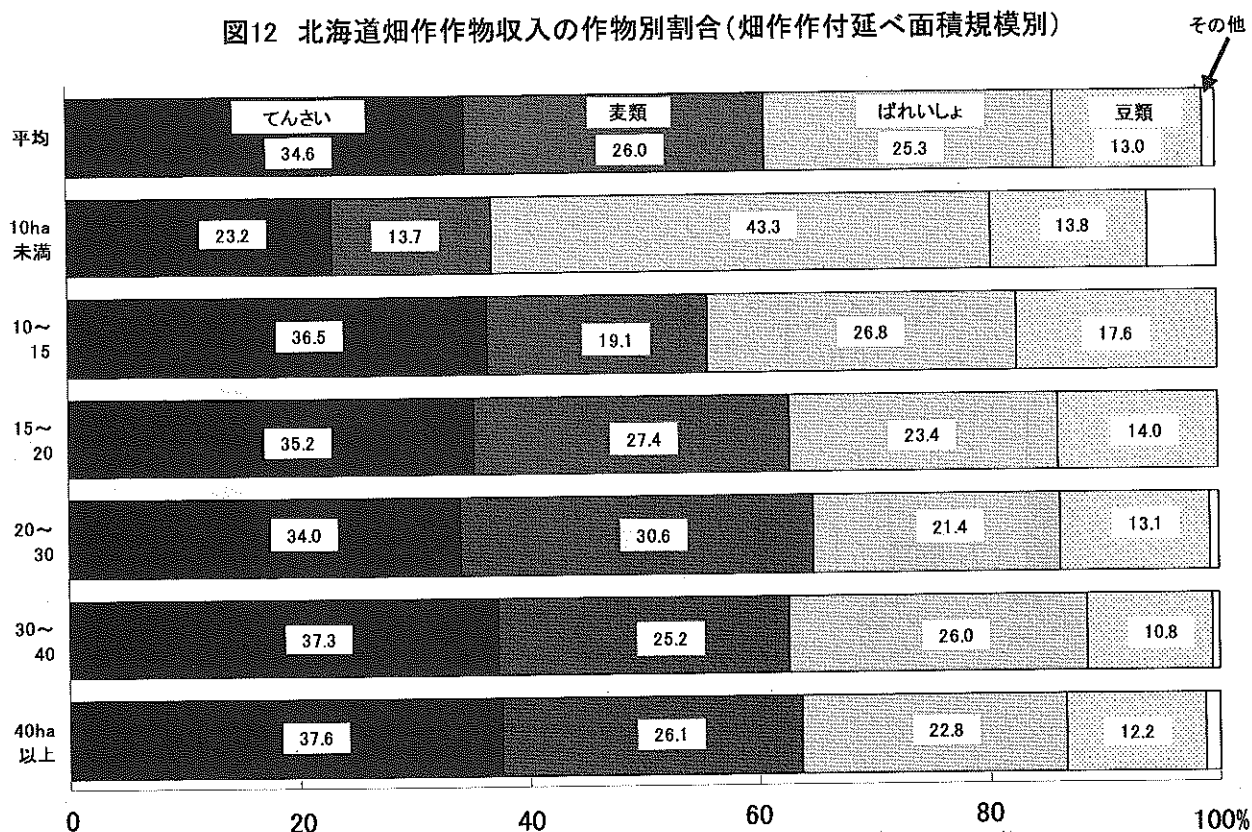
区 分	平均	10ha 未満	10~ 15	15~ 20	20~ 30	30~ 40	40ha 以上	10ha 以上	20ha 以上
農 業 所 得 千円	8 370	3 014	6 615	8 623	10 493	13 521	18 802	10 467	12 040
農 業 経 営 関 与 者 数 人	2.61	2.16	2.87	2.89	2.84	2.62	2.39	2.79	2.74
関与者1人当たり農業所得千円	3 207	1 395	2 305	2 984	3 695	5 161	7 867	3 752	4 394
農 業 専 従 者 数 人	1.35	0.80	1.38	1.47	1.62	1.58	1.65	1.56	1.63
専従者1人当たり農業所得千円	6 200	3 768	4 793	5 866	6 477	8 558	11 395	6 710	7 387
自 営 農 業 労 働 時 間 時間	3 735	2 488	3 893	4 190	4 251	4 503	4 300	4 225	4 328
耕 地 10 a 当 た り "	16	27	21	19	14	12	8	14	13
経 営 耕 地 面 積 a	2 365	925	1 853	2 251	3 006	3 793	5 167	2 931	3 409
農 業 固 定 資 産 額 千円	11 806	5 041	9 765	10 946	15 390	18 455	20 509	14 463	16 690
耕 地 10 a 当 た り "	50	54	53	49	51	49	40	49	49

(イ) 畑作作物収入の作物別割合（図12参照）

北海道の畑作経営農家1戸当たりの畑作作物収入は1,850万円で、このうちてんさい収入が34.6%と最も割合が高く、次いで畑作麦類収入が26.0%、畑作ばれいしょ収入が25.3%、畑作豆類収入が13.0%となっている。

これを畑作付延べ面積規模別にみると、経営規模の大きい階層で畑作麦類及びてんさいの割合が比較的高いのに対し、畑作豆類及び畑作ばれいしょは経営規模の小さな階層で比較的高くなっている。

図12 北海道畑作物収入の作物別割合(畑作物付延べ面積規模別)



ウ 北海道の作物別比較(麦類作、豆類作、ばれいしょ作、工芸農作物作)

北海道における畑作物の代表的な作物である麦類、豆類、ばれいしょ、てんさいについて、部門ごとの作物収入に該当部門経営に起因する共済・補助金等の受取金を加えた部門収支を比較すると次のとおりである。

なお、麦類は麦類作部門(ほとんどが小麦)、豆類は豆類作部門(小豆を主体にいんげん、大豆が少し含まれている)、ばれいしょはばれいしょ作部門、てんさいは工芸農作物作部門(ホップが僅かに含まれている)として部門収支を把握した。

(7) 部門別にみた作付面積10a当たり収入及び所得(図13、図14参照)

麦類作部門、豆類作部門、ばれいしょ作部門及び工芸農作物作部門(てんさい)を該当部門作付面積10a当たり部門収入の北海道平均で比べると、ばれいしょ作部門が12万6千円で最も高く、ほぼ同水準で工芸農作物作部門が12万1千円で続き、麦類作部門、豆類作部門がそれぞれ8万4千円、7万5千円となっている。

これを各部門の作付面積規模別にみると、7.0ha以上の規模では工芸農作物作部門が最も高いのに対し、7.0ha未満の規模では、ばれいしょ作部門が最も高くなっている。

また、麦類作部門は、3.0ha未満の階層以外の各階層で8万円台の水準となっているが、豆類作部門は、全ての階層が7万円台の水準であり、各階層で最も低くなっている。

なお、同様に所得で比べてみても収入の場合と同じ傾向を示している。

図13 麦類作、豆類作、ばれいしょ作、工芸農作物作の部門収入比較（北海道）

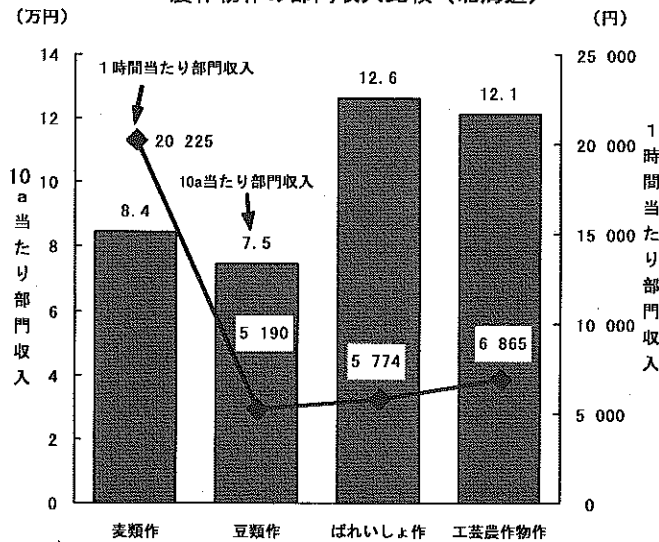
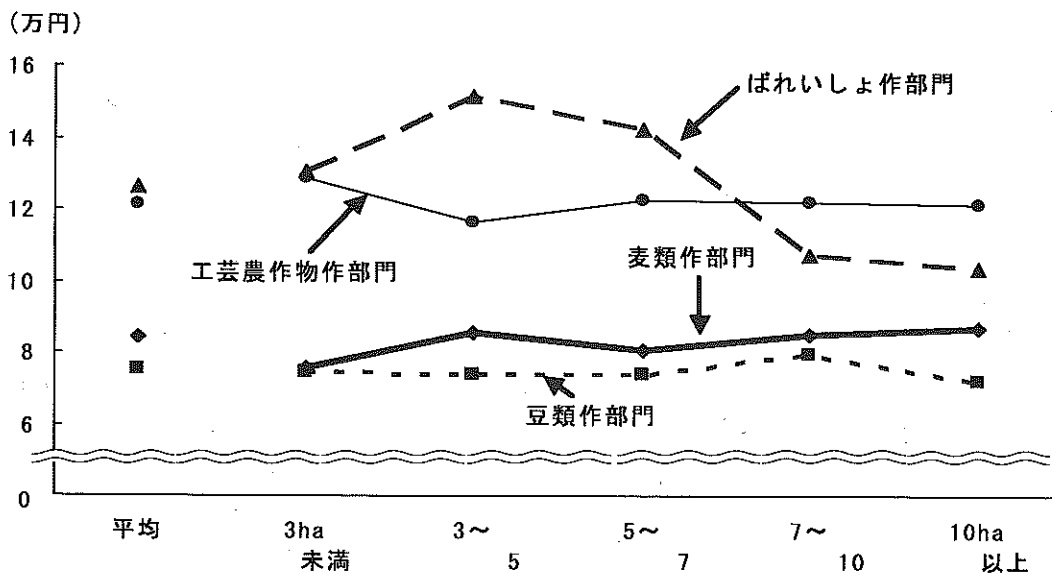


図14 部門作付面積規模別にみた10a 当たり部門収入（北海道）

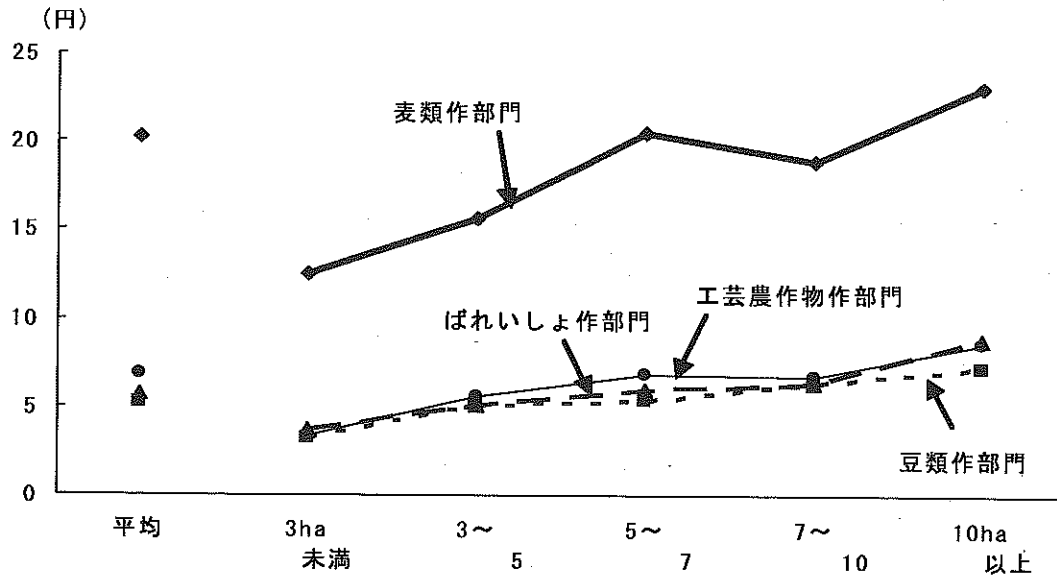


(イ) 部門別にみた労働1時間当たり収入及び所得（図13、図15参照）

北海道平均の部門収入を該部門労働1時間当たりでみると、省力化が進んでいる麦類作部門が2万225円と最も高く、工芸農作物作部門が6,865円、ばれいしょ作部門が5,774円、豆類作部門が5,190円とほぼ同水準となっている。これを各部門の作付面積規模別にみてみると、各作物ともに規模が拡大することに伴い労働生産性が向上して収入が増加している。

なお、同様に所得で比べてみても収入の場合と同じ傾向を示している。

図15 部門作付面積規模別にみた1時間当たり部門収入（北海道）



(4) 九州の作目別比較(かんしょ作、ばれいしょ作、茶作)

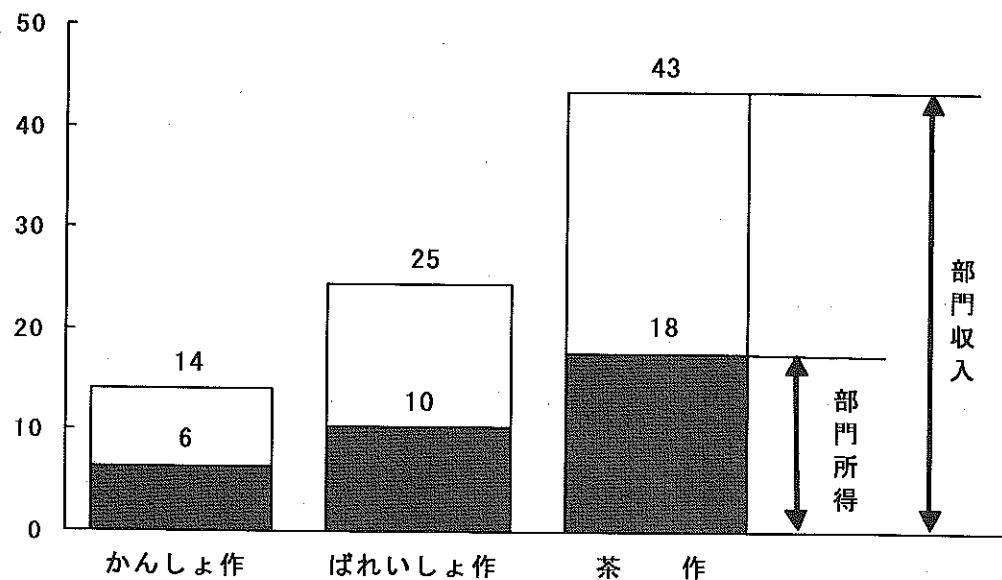
九州のかんしょ、ばれいしょ、茶について、部門ごとの作物収入に該当部門経営に起因する共済・補助金等の受取金を加えた部門収支を比較すると次のとおりである。

ア 部門別にみた作付面積10a 当たり収入及び所得（表7、図16参照）

かんしょ作部門、ばれいしょ作部門及び茶作部門を該当部門作付面積10a 当たり部門収入の九州平均で比べると、茶作部門が43万円で最も高く、次いでばれいしょ作部門が25万円で続き、かんしょ作部門が14万円となっている。

また、同様に部門所得で比べると、茶作部門が18万円、ばれいしょ作部門が10万円、かんしょ作部門が6万円となっている。

図16 部門別にみた部門作付面積10a 当たり収入及び所得（九州）
(万円)



イ 部門別にみた労働1時間当たり収入及び所得（表7、図17参照）

九州平均の部門収入を該当部門労働1時間当たりでみると、該当部門作付面積10a当たり自営農業労働時間にそれほど大きな差がないため、10a当たりでみた場合と部門間の順位に変動がなく、茶作部門が3,492円、ばれいしょ作部門が2,019円、かんしょ作部門が1,455円となっている。

また、同様に該当部門家族労働1時間当たり部門所得でみると、茶作部門が1,636円、ばれいしょ作部門が928円、かんしょ作部門が740円となっている。

図17 部門別にみた労働1時間当たり収入及び所得（九州）

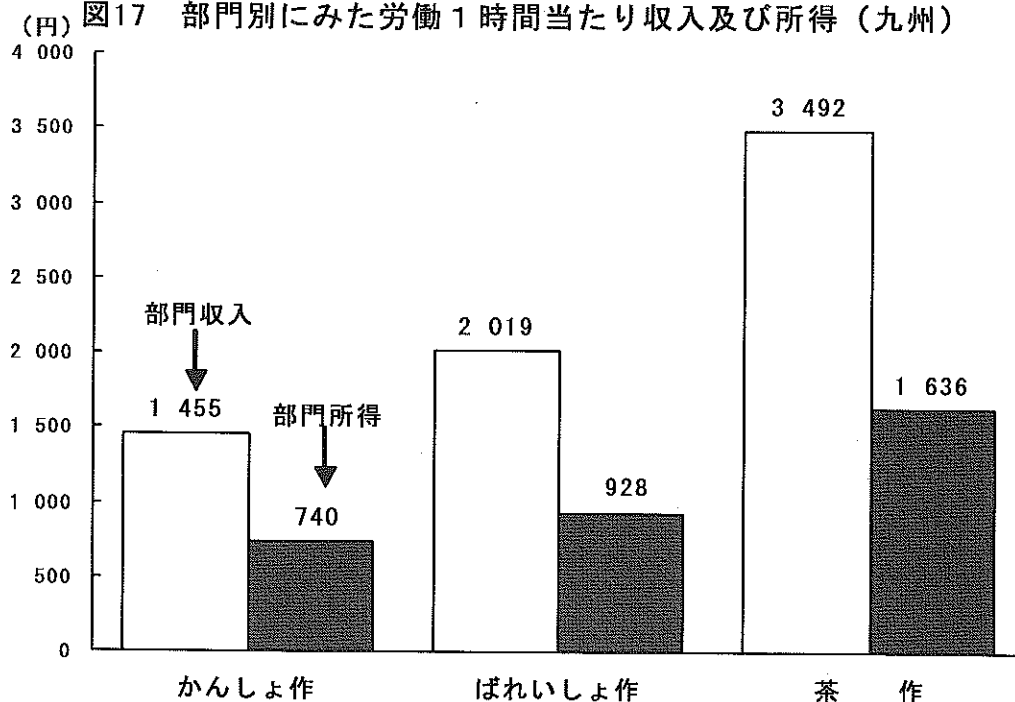


表7 九州の部門別結果（1戸当たり）

区 分		単位	かんしょ作	ばれいしょ作	茶 作
農 業	粗 収 益	千円	1 333	2 473	5 213
	共済・補助金等受取金	〃	2	48	11
農 業	うち、畑作物収入	〃	1 331	2 350	5 202
	業 経 営 費	〃	722	1 425	3 119
農 業	業 所 得	〃	611	1 048	2 094
	(参考) 共済・補助金等を除いた所得	〃	611	1 010	2 085
経営概況	当該作物作付面積	a	95	101	120
	自営農業労働時間	時間	916	1 225	1 493
	うち、家族	〃	826	1 129	1 280
該当作物作付面積部門収入		千円	140	245	434
10a当たり部門所得		〃	64	104	175
該当部門労働1時間当たり部門収入		円	1 455	2 019	3 492
該当部門家族労働1時間当たり部門所得		〃	740	928	1 636